

## 「第16回全国高等学校選抜アイスホッケー大会」開催に伴う 新型コロナウイルス感染者の発生状況について

### 1 大会概要

- (1) 日程 令和3年8月3(火)～8日(日)
- (2) 会場 白鳥王子アイスアリーナ・ダイナックス沼ノ端アイスアリーナ・  
新ときわスケートセンター 3会場
- (3) 参加者 チーム参加者：14都道府県 26チーム  
選手522名・スタッフ134名 計656名  
大会関係者等：261名
- 合計 917名

### 2 感染状況

- 市内 3チーム 生徒15名
- 道内 5チーム 生徒50名 教職員等7名
- 道外 8チーム 生徒67名 教職員等4名
- 大会関係者 7名(市内4名、道内2名、道外1名) 合計 150名

### 3 大会開催に伴う感染対策

- (1) 大会開催前
- ・「新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する基本方針」を作成
  - ・参加チームへ送付して周知
- (2) 大会期間中
- ・参加チームには2週間前からの健康チェックシートを提出確認
  - ・会場では競技を除き全員マスク着用
  - ・対戦チームごとに出入口及びウォーミングアップエリアを分離
  - ・出入口ごとに受付を設置し手指消毒及び検温
  - ・試合ごとに健康チェックシートを提出確認
  - ・更衣室でのミーティングを極力短時間
  - ・試合後はベンチ及び控室の消毒
- (3) その他
- ・会場では原則飲食禁止とし、各チームはホテル等で昼食
  - ・外部との接触や、試合会場以外の不要不急の外出を自粛

#### 4 経過概要

8月 7日 (土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道外1チーム4名に発熱症状があり検査実施</li> <li>・発熱者が出たチームは、今大会の規定で棄権、準決勝1試合中止</li> <li>・残りの準決勝は、当該チームとの対戦がないことから実施</li> <li>・参加全チームに、参加者の体調管理徹底と健康観察を依頼</li> </ul>
8月 8日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道外1チーム4名が陽性</li> <li>・同チームの残り26名の検査を実施し25名が陽性</li> <li>・再度、参加全チームに参加者の体調管理徹底と健康観察を依頼 症状が出た場合は、地元の保健所・医療機関へ相談を依頼</li> <li>・当該チームが棄権したため3位決定戦は中止 決勝戦は、当該チームとの対戦がないことから実施</li> </ul>
8月10日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会実行委員会(市)記者発表(同日付で北海道公表) 〈発表内容〉 道外1チーム29名の陽性を確認</li> </ul>
8月11日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会実行委員会(市)記者発表(同日付で北海道公表) 〈発表内容〉 道外1チーム1名、道内1チーム2名、 市内1チーム6名、計9名の陽性を確認</li> </ul>
8月13日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大を受け、全ての大会関係者等の検査を実施・依頼</li> </ul>
8月16日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市庁舎8階一部窓口を休止(電話対応は可)～20日(金)まで</li> <li>・4施設(白鳥、沼ノ端、新ときわ、ときわリンク)を閉館 ～22日(日)まで</li> </ul>
8月18日 (水) ～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立感染症研究所や北海道、苫小牧保健所、市等が大会施設などの 現地確認を含めた調査</li> </ul>
8月25日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立感染症研究所から暫定報告</li> </ul>
8月27日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道より道外12名の陽性公表、全陽性者数150名、検査終了</li> </ul>
9月 8日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第17回定例会総務委員会にて報告</li> </ul>
9月27日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立感染研究所より今大会における新型コロナウイルス感染症事例の公表(4P参照)</li> </ul>

#### 5 国立感染症研究所からの暫定報告 <提言案>

- (1) 健康観察及び健康観察ガイドラインの見直し
  - ・ガイドラインの記載内容の見直し
  - ・参加者、関係者の健康観察の徹底
- (2) 疑い症例発生時の主催者の早期対応
- (3) 参加者、関係者の大会における感染管理
- (4) 飛沫感染、空気感染を起こしにくい競技環境の確保
- (5) 飛沫感染、空気感染を起こしにくい宿泊環境の確保

## 6 提言案に対する現在の施設の対応状況について

### (1) リンク会場内

- ①リンク会場内の CO2 濃度の測定及び監視
- ②サーキュレーター（大型扇風機）を設置し徹底した換気  
※リンク周囲、選手ベンチ、通路など
- ③整氷時にシャッターやリンク扉、観客席非常口を開放し外気取入れ

### (2) 控室等の諸室

- ①控室の利用人数を15名までに制限を行い間隔を開けて利用  
※利用人数が多い場合は、2部屋を貸し出すなどの対応
- ②控室はドアを開放しサーキュレーター（大型扇風機）を設置

### (3) 競技者

- ①試合中以外（ウォーミングアップを含む）原則マスク着用
- ②監督コーチについては大声を出さず必ずマスク着用  
※選手についても大声は出さない
- ③試合中の選手ベンチでは間隔を開けて座る  
※選手ベンチに入りきれない場合はベンチ横のスペース使用

### (4) その他

- ①感染対策に伴う張り紙やアナウンスで注意喚起

## 7 今後の対応について

- (1) 今後も施設の対応策等を検討するとともに、国や北海道、(公財)日本アイスホッケー連盟等と連携し、大会の検証を行い、大会開催に伴う基本方針等の見直しを行う。

印刷

詳細

Published: 2021年9月27日



## 全国高等学校選抜アイスホッケー大会における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）事例

(速報掲載日 2021/9/27)

北海道苫小牧市で2021年8月4～8日に全国高等学校選抜アイスホッケー大会（以下、大会）が開催された。7月31日～8月3日まで同市で行われた事前合宿と公式練習、および8月9日のU-18代表合宿に参加した15都道府県26チーム中16チームで新型コロナウイルス感染症（COVID-19）症例の集団発生を認めた。合宿を伴う部活動やアイスホッケー競技のCOVID-19対策に役立つと考えられる知見や課題が得られたのでそれらを報告する。

症例定義を、大会および大会関連活動（事前合宿や代表活動等）にかかわり、かつ7月20日～8月23日に検査で新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）感染が確認された者とした。苫小牧保健所が所有する調査票とゲノム解析結果の確認に加え関係者への聞き取りを行った。

全症例150例中、選手が132例（88%）を占めた（表）。チーム内人数が多く、準決勝まで勝ち進み、比較的長期間市内に宿泊していた4チーム（A～D）で全症例の75%を占めた（図）。初発例は8月4日発症であり、8月9日のピークを経て、19日まで発症例が認められた。チームA、Bでは発熱者がいることを把握していたが主催者に報告せず、主催者側の健康記録の確認不足もあり、発症者がいるチームを含め複数回の試合が行われた。うちチームBは大会前の合宿への卒業生の参加、卒業生を交えた会食、会場で既定の動線の不遵守、宿泊施設で他チーム選手部屋の訪問、等の課題を認めた。チームF、H、J、Oには、他症例との接触機会が競技中のみ、または宿泊施設のみで認められた。選手は氷上やベンチではマスク非着用であり、審判は通常競技で使用している眼の防護具に加え、マウスシールドを着用していた。審判は、試合中（20分3ピリオド）の氷上で、ベンチから大声で応援していた選手と1m以内にいることが多かった。控室は登録選手22名と監督コーチが入室するには狭く、控室に入らず廊下で着替えた選手もいた。このような状況で選手同士でマスク無しで、着替えの間1m以内に近づく機会があり、時に会話をしていた。宿泊施設では換気不足が疑われた食堂や大浴場でチーム内外の人の接触があり得る状況であった。タイムキーパー、カメラマン、大会役員の3例は他症例との近距離の接触は確認されなかった。チームA、B、C、D、F、Gの選手・監督コーチ28例と審判1例のSARS-CoV-2のゲノムを29.7kb以上比較した結果、全て3塩基以内の変異であった。

以上の結果から、本事例は一連の関連事例と考えられた。大会前からのSARS-CoV-2持ち込みが疑われ、競技中（氷上・ベンチ）や競技前後（会場控室、廊下での着替え、入場前後）の接触、知人との交流、宿泊中の活動を通じ、チーム内外に感染が伝播したと考えられた。特に運動直後の選手が密に過ごすベンチや控室では、マスク非着用であると、チーム内や選手審判間で飛沫感染が起こりうる状況であった。感染経路不明の3例に関しては、飛沫感染が疑われる状況が確認されず、アイスリンク周囲が換気不良であったこと（データ未掲載）、周囲に多数の感染者がいたこと、を合わせるとうエアロゾル感染も否定できない状況であった。さらに、長期宿泊チームでは、宿での食事や脱衣場を含む大浴場の利用等からチーム内で大規模に感染が拡大したと考えられた。これらの場所はマスク無しで過ごすため、近距離での会話や換気が十分でない状況で密に長時間過ごしていた場合、チーム内外で飛沫感染やエアロゾル感染が起きていた可能性がある。

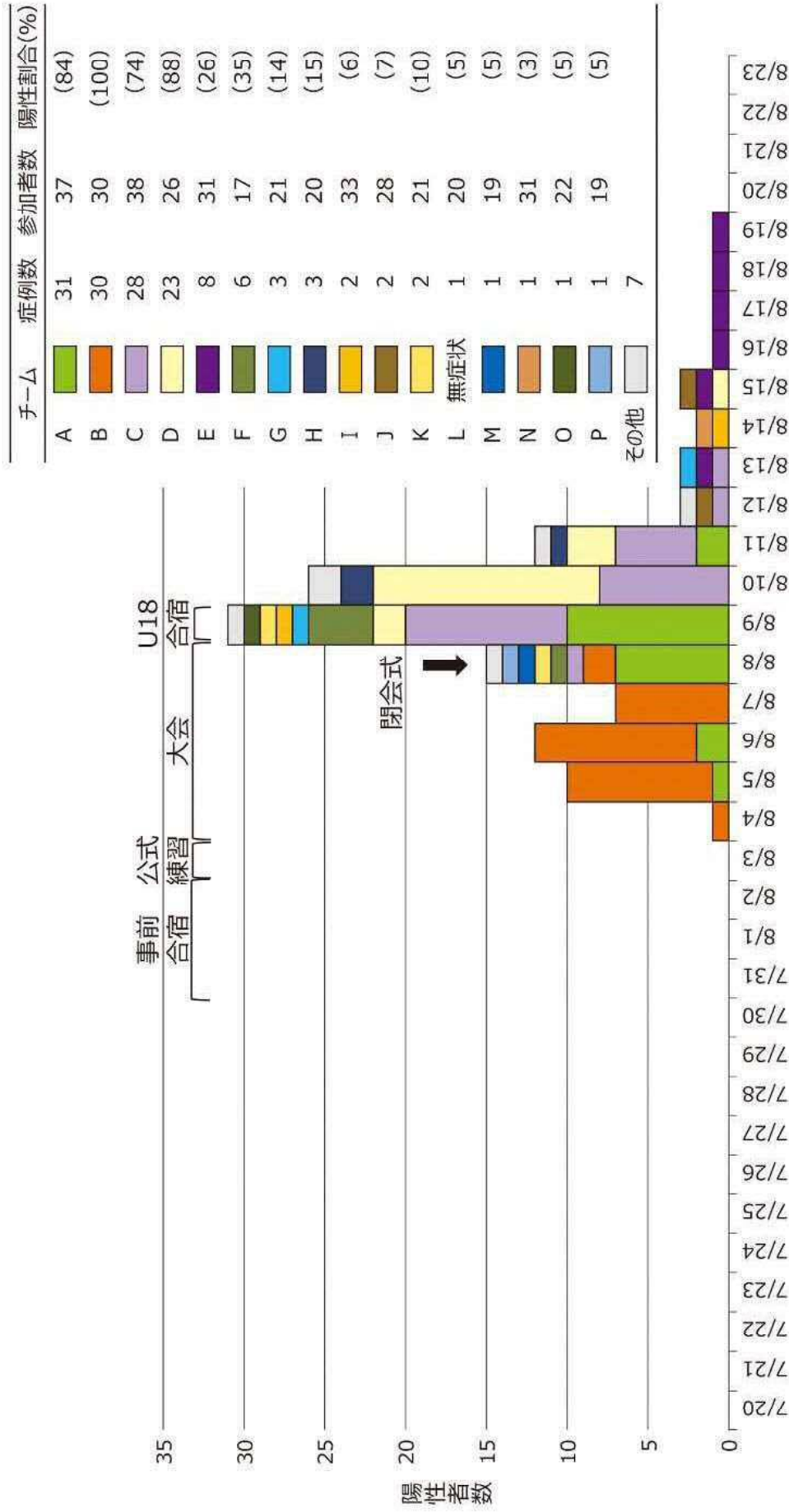
本事例を踏まえ、主催者は、大会2週間前からの健康観察の確認、患者や疑い例発生時の対応準備〔濃厚接触者含む滞在先確保、参加チームからの事前の情報収集（同行者を含む名簿、大会2週間前からの旅程表、宿泊施設の部屋割、基礎疾患、ワクチン接種歴、保護者連絡先）等〕、ベンチでの大声禁止と着席の徹底、審判のマスク着用、控室の密な状況と換気の改善、会場での徹底した動線管理が重要である。参加チームは、大会2週間前からの健康状態の確認と主催者への報告の徹底（改善しても報告）、大会2週間前からの外部との合同練習や試合および卒業生含む外部との接触の禁止、感染対策を講じた宿泊施設の利用が重要である。なお、ワクチン接種推奨や大会前検査の導入は検討の価値がある。

謝辞：苫小牧市、日本アイスホッケー連盟、北海道アイスホッケー連盟、大会会場および宿泊施設の関係者の皆様に深く感謝いたします。

北海道苫小牧保健所 儀同咲干江 橋本明樹 西本綾香  
北海道保健福祉部 若森吉広 石井安彦 立花八寿子  
北海道立衛生研究所健康危機管理部 大久保和洋 大野祐太 藤谷好弘  
北海道大学大学院工学研究院 菊田弘輝 林 基哉  
国立感染症研究所実地疫学専門家養成コース（FETP） 大森 俊  
同 薬剤耐性研究センター 山岸拓也  
同 実地疫学研究センター 砂川富正

表. 全国高等学校選抜アイスホッケー大会関連COVID-19  
症例の基本属性、2021年7月20日～8月23日 (n=150)

特徴		陽性者数
性別	男性	148 (99%)
年齢(歳)	中央値 [四分位範囲]	17 [16-17]
探知時症状	有り	127 (85%)
	無し	23 (15%)
属性	選手	132 (88%)
	監督・コーチ・トレーナー	10 (7%)
	マネージャー	1 (1%)
	大会役員 (On Ice)	
	審判	2 (1%)
	大会役員 (Off Ice)	
	記者・カメラマン	2 (1%)
	タイムキーパー	1 (1%)
	大会役員	1 (1%)
	大会出場校卒業生 (U20選手)	1 (1%)
ワクチン接種	2回接種済	1 (1%)



(無症状または発症日不明の21例を除く) 発症日

図. 全国高等学校選抜アイスホッケー大会関連 COVID-19 症例のチーム別発生状況、2021年7月20日～8月23日 (n=150)

